

INFORMATION *Circular*

JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

■第11期会長・運営委員選挙結果	選挙管理委員会	1
■ごあいさつ	安増郁夫	2
■第22回大会のお知らせ	片桐千明	3
■DGDの大型化について	編集局	5
■第8回九州・山口発生懇話会后記	桑名 貴	5
■助成金の案内	事務局	6
■公募のお知らせ		7
■研究会の案内		8
■日本学術会議だより		9
■会員異動		13

NO.61

DECEMBER 1988

日本発生生物学会

〒194 東京都町田市南大谷 11

三菱化成生命科学研究所発生生物学研究部

会 長：〒 160 東京都新宿区西早稲田 1-6-1
早稲田大学教育学部 生物学教室
安増郁夫（電話 03-203-4141 内線3911）

DGD編集主幹：〒 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部 動物学教室
米田満樹（電話 075-751-2111 内線4082）

DGD編集幹事：〒 543 大阪市天王寺区南河堀町
大阪教育大学 生物学教室
加藤憲一（電話 06-771-8131 内線251）

事務局：〒 194 町田市南大谷11
三菱化成生命科学研究所 発生生物学研究部
（幹事長） 東中川 徹（電話 0427-24-6244）
（庶務幹事） 北村 邦夫（電話 0427-24-6294）
（会計幹事） 加藤 由宇子（電話 0427-24-6250）

学会センター：〒 113 文京区弥生2-4-16
学会センタービル内日本学会事務センター
日本発生生物学会係（電話 03-817-5801）

入退金、会費納入、および出版物（DGD、サーキュラー等）の郵送については、上記学会事務センターに書面で御問合せ下さい。

● 事務局よりお願い

発生生物学会オリジナルテレホンカードを事務局で発売しております。

（一枚 1,000円 度数 50）

- 入手方法 ① 事務局（0427-24-6250）に電話をして下さい。
② テレホンカードをお送りします。
③ お支払い方法については、電話で相談に応じます。

まわりの方々と団体で申し込まれますと、送金等が便利です。

是非御一報ください。

日本発生生物学会第11期会長および運営委員選挙結果

10月13日および11月15日東京工業大学理学部会議室で開票され、以下のように決りました。

第2次会長選挙の結果

会長：安 増 郁 夫

(次点：江 口 吾 朗)

運営委員選挙の結果 (50音順)

運営委員：江 口 吾 朗 ✓

岡 田 節 人

岡 田 益 吉 ✓

近 藤 寿 人

酒 井 彦 一

佐 藤 矩 行 ✓

嶋 田 拓

鈴 木 義 昭 ✓

竹 市 雅 俊

東 中 川 徹

星 元 紀 ✓

山 上 健 次 郎

山 名 清 隆

米 田 満 樹

(次点：団 まりな)

以上

選挙管理委員：星 元 紀

岸 本 健 雄

山 崎 君 江

景徳園 先生のごあいさつ

日本発生生物学会 会長 田安 増 郁 夫

このたび、私は日本発生生物学会会長に再任される名誉によくしました。その責任の重大さを痛感致しております。過去2年間より以上に、今後の任期2年間も本学会のよき伝統を次の世代に伝え、会の発展に実務的に貢献できるよう努力したいと考えております。

1988年に日本発生生物学会は20年目をむかえ、会の規則に従って、「10年目の反省」の会を山形の大会期間中におこない多数の参加者を得ました。参加下さいました会員の皆様に心から感謝致します。その会の席上、必ずしも結論というようなものが出たわけではなかったと思いますが、発生生物学会を今後の発展の方向へむけての議論がなされました。現在、日本発生生物学会と会員の皆様との間の接触は、極端にいえばサーキュラーと太会に限られておりますが、今後この「反省」をふまえて、より多くの機会がもてるよう努力したいと思っております。又、各種研究助成推薦の件、そして海外渡航援助の件も、特に1989年は ISDB の大会が開かれますので、出きる限り努力したいと思っております。

本学会の大きな事業の一つである DGD の発行は、これまでの2年間編集主幹米田先生、編集幹事加藤先生を中心とする編集委員会の御努力で、国内、国外からの投稿数も増加し、予定発行頁数を上回って順調にすすんでおります。又、1989年からはデザインを一新して、A4版になり、実質的増頁がおこなわれる運びとなりました。現在、このような DGD 発展を支えるべき本会の財政状態は、再三報告しましたように、主として国際的な要因でかなり困難な状態であることは、会員皆様も御存じのとおりです。このような財政状態のもとで、DGD のデザイン変更、増頁は、ますます会の財政を圧迫するものではありませんが、現状に留まっている限り、DGD 頒布はむしろ低下する可能性さえあります。この改変は頒布量の低下防止、そして増大をめざすものでもあります。会員の皆様の御協力を心からお願い致します。

又、DGD に関して1989年に予定されております重要な事業の一つは、前会長故加藤淑裕先生の記念号を刊行することです。生物学上の加藤先生の業績は極めて優れたものであり、いずれかの Journal で当然、記念号が刊行されるべきものであると考えます。故加藤先生の会長、運営委員としての本学会への貢献をも考慮すれば、本学会が DGD に記念号を刊行することは当然であり、むしろ名誉であると考えます。この事についても、会員の皆様に御協力をお願い致します。

本学会の財政上の危機のさなかに、このような計画を進行させることは、かなりの困難を伴うものであります。私は、会員の皆様と共に、これらの困難を排除して、本学会の発展を求めて、微力を尽くしたいと考えております。会員の皆様の御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

日本発生生物学会第22回大会のお知らせ

日本発生生物学会第22回大会準備委員会

委員長 片桐千明

1. 期 日：1989年6月22日(木)・23日(金)・24日(土)
2. 会 場：北海道大学学術交流会館(札幌市北区北7条西5丁目)
3. 参加申込み
 - (1) 同封の参加申込書に必要事項を記入して、1989年3月23日(木)(当日消印有効)までに申し込んで下さい。(研究発表は1989年度までの会費納入者に限ります。)
 - (2) 申込先：〒060 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学理学部動物学教室
日本発生生物学会第22回大会準備委員会
 - (3) 大会参加費：5,000円(学生・院生 4,000円)
大会参加費は郵便局の定額小為替で、指定受取人を
札幌市北区北10西8 北海道大学理学部動物学教室、若原 正己
として、参加申込書と同封にてお送り下さい。
 - (4) 懇親会を大会第2日目6月23日(金)に行う予定です。参加を御希望の方は懇親会費(4,000円)を大会参加費に加算してお送り下さい。
 - (5) 同封の受取書の所定欄に名前および必要事項を、また表に郵便番号、住所および氏名を記入し、必ず切手をはって下さい。

4. 研究発表

- (1) 申込期限：1989年3月23日(木)(当日消印有効)
- (2) 本大会の研究発表は口頭発表とポスター展示の併用で行います。発表者はどちらかを選択して申し込んで下さい。但し、同一研究室からの類似した演題での多数の口頭発表はなるべくご遠慮下さい。また、御希望の発表形式を変えて頂く場合もありますので御了承下さい。その決定は準備委員会におまかせ下さい。
- (3) 研究発表の申込者は(Ⅰ)同封の参加申込書に必要事項を記入し(Ⅱ)発表要旨(和文)とともに書留でお送り下さい。なお、連絡書にも筆頭発表者(演者名)を裏面に、その連絡先を表の宛名欄に記入の上、必ず切手をはってお出し下さい。研究発表は昭和64年度までの会費納入者に限ります。連名で発表される場合には筆頭発表者(演者)が申込んで下さい。それ以外の方は参加申込書の所定の欄に筆頭発表者(演者)名を記入して下さい。
- (4) 口頭発表の場合：発表時間15分(口頭発表12分、討論3分)

会場には35mm判(外枠50×50mm)スライドプロジクター1台を用意し

ます。スライド枚数は1演題につき10枚以内とします。16mmフィルムの
映写機の使用を希望される方は大会準備委員会（TEL011-716-2111
内線5300）にご相談下さい。

ポスター展示の場合：サイズは幅180×高さ180cmぐらいです。形式は特には定めませんの
で大いに工夫をこらして下さい。パネルへの貼付用具は準備委員会で用意します。

- (5) 発表要旨の原稿はそのまま写真印刷しますので黒インクで明瞭に書いて下さい。図表も印刷
できます。
- (6) 同封の英文抄録用紙は各自の発表終了後、座長（ポスターの場合には受付係）に提出して
下さい。参加申込みの際には同封しないで下さい。
5. 大会準備委員会では宿泊のお世話はいたしません、株式会社「産経海外旅行」（TEL
011-271-5388）が交通・宿泊について便宜（割引航空券など）を計ります。大会参加者には後
日（4月上旬頃）、同社より案内が送付されますので、希望者は各自申込んで下さい。なお、
札幌市内の共済関係宿泊施設は以下の通りです。

共 済 関 係 宿 泊 施 設

(林) グリーン札幌	〒060	札幌市中央区北1条西11丁目	011-281-2648
(地) 北海道庁共済会館	〒060	札幌市中央区北3条西18-2	011-621-0216
(鉄) 札幌称生会館	〒060	札幌市中央区北3条西12-1	011-271-2511
(市) ポールスター札幌	〒060	札幌市中央区北4条西6-2	011-241-9111
(連) 清 楓 荘	〒060	札幌市中央区北6条西7丁目	011-631-2266~8
(北) ホテルノースシティ	〒064	札幌市中央区南条9西1丁目	011-512-4433
(防) 札幌クラブ	〒064	札幌市中央区南28条西9丁目	011-531-1517
(公) ホテルアカシヤ	〒064	札幌市中央区南12条西1丁目	011-521-5211
(私) 北海道会館	〒060	札幌市中央区北1条西6丁目	011-261-5311
(警) エルム会館	〒060	札幌市中央区北1条西7丁目	011-231-1361
(連) 札幌共済会館 K K R 札幌	〒060	札幌市中央区北4条西5丁目	011-231-6711

DGDの大型化に伴う投稿上の注意

編集主幹 米田満樹

編集幹事 加藤憲一

DGDは、1989年の巻からA4版になります。最初の号は2月に出版します。これまで間60篇年最後の論文を掲載してきましたが、本年は約576頁で約70～75篇が出版できる予定ですから、一層多数の投稿をお待ちします。

◎ 当然ながら、学会が負担する出版費用は増大します。写真や図は面積当たりの製版代が高価なので、現状の総面積を維持したいと思います。御投稿に当たっては、できるだけコンパクトで情報密度の高い写真・図を作られるよう、御努力下さい。ページのサイズはA4でも、写真や図は、原則的にシングルカラム幅(80mm)で(これより大きいのは縮小して)印刷するよう紙面で編集する方針ですから御承知下さい。どうしてもダブルカラム幅(167mm)が必要な組写真・組み図の場合も、無駄なスペースがないように縦横の長さの比などに考慮して構成を工夫して下さい。

◎ 図や写真に文字・記号を入れる場合には、同一論文のすべての図・記号の記号を、同じ文字型に統一して下さい。但し、この作業は、編集作業の一貫として行うことができますので、著者が直接原図に入れておられないものでも受け付けます。この場合には、原図のゼロックスコピーを付け、その中に文字・記号等の挿入位置を明確に書き入れて下されば結構ですが、矢印など厳密な特定部分の指定は、著者自身でレタリング等の記入を行って下さい。

◎ 論文が採択された段階で、最終稿をワープロディスクにセーブされておられる著者には、ディスクのコピーをお送り下さるよう、今年からお願いします。製版・校正のプロセスが短縮されますので、編集部からの要請があったときは、どうかご協力をお願い致します。

第8回九州・山口発生活話会後記

第8回九州・山口発生活話会

事務担当 桑名 貴

この懇話会が始まってから早くも今年で第8回目を迎えた。この懇話会は九州と山口の発生活に携わっている研究者間(学生も含む)での情報交換、相互の親睦、後進の育成を図る目的で始まったとのことである。私の印象からの独断と偏見で述べさせて頂くと、この会の特徴として、①夕食と懇親会を挟んで(第一日目:午後4～6時まで懇話会(研究発表)、6時～7時半までが夕食と懇親会、夜の8時～10時まで懇話会。第2日目:午前9～11時まで懇話会。)の気楽な雰囲気があること、②発表の途中でも質問や討論を挟んでも良いこと、③時間の半分が討論

時間に充てられていること、そして④期せずして懇話会の参加者数が毎回約30—40名程度であり、お互いの顔と研究分野をかなり良く知ることのできる数となっていること、⑤加えて現在までの世話人の方のご努力により参加費用が格安であること、等の理由から（もっと多くの理由があるのかもしれませんが）本当に活発な議論、討論が気楽に行われます。また、話題のテーマはあえて限定せず、話題提供者の判断に任されています。さらに、過去においては、広島や愛媛からの参加もあり、オープンである本懇話会らしい発展をみせています。「三回坊主に終わらないように」、との発起者の方々の出発点での危惧は、どうやら杞憂に終わりそうです。

今年の懇話会は熊本大学医学部第三解剖（藤本十四秋教授）の当番で、熊本県矢部町にある国民宿舎「通潤荘」において7月29日（金）午後から30日（土）午前中まで開かれました。幸いにも学生を含めて42名の方々の参加を得、29日は深夜に至るまで活発な討論が続きました。会場周辺は、少し足を延ばせば壇の浦の戦いに敗れた平重盛とその家臣が落ち延びて隠れ住んだと伝えられる内大臣橋などがあり、ロマン多い環境にあります。また、すぐ近くには今回の会場である通潤荘の名前の由来となった「通潤橋」（国指定重要文化財）という水路橋があり、懇話会の終了後には参加者全員でこの通潤橋からの壮大な放水を楽しみました。懇話会では以下の話題で発表されました。

①長期骨髄培養を用いた免疫異常マウスの造血系の解析：林眞一（熊大・医・免疫病理）、②ウニ胚単離小割球の骨片形成に対する胚抽出物質の効果：清本正人（鹿大・理・生物）、③マクロファージの個体発生——Kupffer 細胞を中心として：内藤眞（熊大・医・第二病理）、④胎児性水俣病に関する実験的アプローチ：井上稔（国立水俣研・基礎病理）、⑤哺乳類・生殖細胞の異所性分化について：吉永一也（熊大・医・第三解剖）、⑥メダカ卵の受精電位について：嶋本公司（熊大・理・生物）、⑦上衣細胞——発生学的考察：岩堀修明（長大・医・第一解剖）、⑧マウスにおけるB細胞の個体発生：小川峰太郎（熊大・医・免疫病理）、⑨ホヤの初期発生における興味（卵細胞質移動の機構その他）：沢田知夫（山口大・医・第一解剖）、⑩ラット陰茎骨について、これまでわかったこと：村上柳太郎（山口大・理・生物）、⑪発生学と老化学の接点：國貞隆弘（熊大・医・免疫病理）、⑫カスミサンショウウオ卵の多精防止反応について：岩尾康宏（山口大・理・生物）、⑬アフリカツメガエルの *in vitro* での精子形成：朝倉省二（熊大・理・生物）、以上の13題。

なお、第9回の発生懇話会は九州大学理学部生物学教室の山名清隆教授のお世話で、福岡近辺で開かれることになっています。興味のある方（学生を含む）は山名先生までご連絡下さい。

助 成 金 の 案 内

1989年8月オランダで開催されます国際発生生物学会議の参加者の旅費を、成茂基金より援助いたします。ただし、発表者に限ります。応募者は3月末日までに事務局へ申し出て下さい。

教官公募のお知らせ

東京工業大学理学部生体機構学科では、この度、下記要領で教官を公募いたします。本学科は、1988年4月に新設され、生体情報科学講座（設置済）、生体物理学講座、生体動力学講座、発生生物学講座、分子進化学講座、生体光反応学講座の6講座より成っております。今後、年次計画で教官等を充足させていく予定です。

記 生体機構学科

記 東京工業大学理学部

1. 公募教官

生体物理学講座 助教授

発生生物学講座 教授および助教授

分子進化学講座 教授および助教授

生体光反応学講座 教授および助教授

（応募にあたっては講座名と教授および助教授の区別を記して下さい）着任は1990年4月以降の予定ですが、人事は1989年夏までに内定いたします。

2. 提出書類

履歴書、論文リスト、主要論文の別刷5編（総説があれば、代表的なものを1～2編これに含めて下さい）、抱負（2000字程度）。履歴書には希望する講座名と職名をも記して下さい。

封筒には応募書類在中の旨を朱書願います。

3. 締め切り 1989年1月31日必着

4. 書類送付先および問い合わせ先

〒152 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学 理学部 生体機構学科 主任

広瀬 茂久

☎ 03-726-1111 内線 2226

第5回哺乳類全胚培養研究会

時 間：1989年1月27日（金）13：00～16：30（懇親会16：30～）

場 所：東京医科歯科大学1号館9階特別講堂

① 糖尿病における奇形発生の成因について

○赤沢 昭一，長瀧 重信

長崎大学医学部第一内科

② In vivo と In vitro の相関 —エチレンチオウレアを用いて—

○岩瀬 隆之，水野 英子，池田 保男，藤井 治，横山 篤，
江藤 一洋

三菱化成(株)安全性研究所

東京医科歯科大学歯学部顎研発生

③ 全胚子培養法を用いたチアベンダゾール（TBZ）の

催奇形性とTBZの胚子内変化

○小縣 昭夫，米山 允子，藤谷 知子，安藤 弘，久保 善一，
松本 信雄

東京都立衛生研究所毒性部

総 会

コーヒーブレイク（機器展示）

④ 顎顔面領域の催奇形実験—エチルニトロソウレアを用いて—

○大西 克，三木 明德，藤本 悦子，大森 輝明

神戸大学医学部口腔外科学教室

⑤ マウス全胚培養法と顔の形態形成

○大隅 典子，中村 友保，朝田総一郎，秋田 正治，横山 篤，
江藤 一洋

東京医科歯科大学歯学部顎研発生

連絡先：〒113 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学歯学部顎研発生部門

TEL 03 (813) 6111 内線 5291（朝田総子，横山 篤，江藤一洋）

第14期最初の総会開催される

昭和63年 8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第14期が7月22日から発足し、7月25日～27日の3日間、第14期最初の総会が開催されましたので、その総会等についてお知らせします。

日本学術会議第105回総会報告

7月22日の第14期の発足に伴い、同日付で内閣総理大臣による日本学術会議会員の発令が行われた（辞令の交付式は、総会日程の関係で7月25日に挙行）。第14期の会員は、選出制度が学術研究団体を基礎とする推薦方式に変わって後、2回目の会員である。この第14期会員による最初の総会である、第105回総会が、7月25、26、27日の3日間、本会議講堂で開催された。

第1日目(25日)。午前中の新会員への辞令交付式に続いて、13時に総会が開会され、直ちに、会長及び両副会長の選挙が行われた。会員による互選の結果、会長には、第13期の会長であった近藤次郎第5部会員が再選された。また、人文科学部門の副会長には、大石泰彦第3部会員が、自然科学部門の副会長には、渡邊格第4部会員がそれぞれ選出された。選挙終了後、近藤会長から、「一生懸命務めるつもりなので、会員の方々の御協力をよろしく願いたい。」との就任のあいさつがあり、また、大石、渡邊両副会長からもそれぞれ就任のあいさつがあった。

総会終了後、直ちに、各部会が開催され、各部の役員である部長、副部长、幹事の選出が行われた。（第14期の役員については、別掲を参照）。

第2日目(26日)。10時に総会が開会され、始めに、近藤会長が、第13期の会長という資格で第13期の総括的な活動報告を行った後、3年間を振り返り特に印象の深いものとして、脳死問題に関する討議、ICSU 総会招致に関連する科学者の自由交流問題、学術会議の予算等について、その所感を述べた。続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長代理として事務総長が、第14期会員の推薦を決定するまでの経過報告等を行った。

引き続き、会長から3日目の総会で提案・審議する予定の「第14期活動計画委員会の設置について（申合せ案）」に関する各部での事前討議について並びに各常置委員会の委員定数の決定に基づく各部での委員の選出について、それぞれ各部へ付託がなされた。

総会終了後、直ちに各部会が開催され、前述の申合せ案の討議及び各常置委員会委員の選出等が行われた。

第3日目(27日)。10時に総会が開会され、会長から前述

の「第14期活動計画委員会の設置について（申合せ案）」の提案が行われた。この申合せ案は、第14期の活動に関する基本的計画の立案を任務とする臨時の委員会を次の定例総会までの間、設置するという内容を内容としている。この提案は、その構成等に関する若干の討議の後、原案どおり可決された。

総会終了後、直ちに各部会が開催され、設置が決定された第14期活動計画委員会委員の選出等が行われた。

なお、この第14期活動計画委員会は、総会期間中に第1回の会議を開き、全会員を対象にした第14期の学術会議の活動に関するアンケートの実施を決めるなど、早速その活動を開始した。

第14期日本学術会議会員の辞令交付式等について

第105回総会に先立ち、第14期日本学術会議会員の辞令交付式が7月25日（月）10時35分から、総理大臣官邸ホールで行われた。辞令交付式は、まず、第1部から第7部までの会員の氏名が順次読み上げられた後、会員全員を代表して最年長者である山本正男第1部会員が竹下登内閣総理大臣の代理として小淵恵三内閣官房長官から、辞令の交付を受けた。その後、小淵長官から、第14期会員に対する期待を込めた内閣総理大臣あいさつの代読があり、続いて、山本正男会員から、会員を代表して国民の期待に沿うよう努力したい旨のあいさつがあって、式は終了した。出席会員は190人であった。なお、第14期日本学術会議会員の発令は、第14期の始期である7月22日付けであるが、総会日程との関係で、総会初日の7月25日に辞令交付式を行ったものである。

26日には、午後の各部会終了後、18時から、小淵内閣官房長官主催による歓迎パーティーが本会議のホールで行われた。小淵長官のあいさつがあり、続いて、脇村日本学士院長の代理としての石井良助学士院会員から祝辞があった。これに対し近藤会長によるユーモアに富んだ答礼のあいさつがあり、沢田敏男日本学術振興会会長の乾杯の音頭でパーティーが進められ、活発かつ友好的な歓談が行われた。

第14期日本学術会議役員

会 長	近藤次郎 (第5部・経営工学)
副会長 (人文科学部門)	大石泰彦 (第3部・経済政策)
副会長 (自然科学部門)	渡邊 格 (第4部・生物科学)
〔各部役員〕	
第1部 部長	黒田 俊雄 (歴史学)
副部長	北川 隆吉 (社会学)
幹 事	一番ヶ瀬康子 (社会学)
"	肥田野 直 (心理学)
第2部 部長	西原 道雄 (民法法学)
副部長	川田 侃 (政治学)
幹 事	経塚作太郎 (国際関係法学)
"	山下 健次 (公法学)
第3部 部長	鳥袋 嘉昌 (経営学)
副部長	大石嘉一郎 (経済史)
幹 事	木村 栄一 (商学)
"	則武 保夫 (財政学・金融論)
第4部 部長	中嶋 貞雄 (物理科学)
副部長	田中 郁三 (化学)
幹 事	樋口 敬二 (地球物理学)
"	平本 幸男 (生物科学)
第5部 部長	岡村 総吾 (電子工学)
副部長	高村 仁一 (金属工学)
幹 事	市川 惇信 (計測・制御工学)
"	藤本 盛久 (建築学)
第6部 部長	江川 友治 (農芸化学)
副部長	中川昭一郎 (農業総合科学)
幹 事	飯田 格 (農学)
"	水間 豊 (畜産学)
第7部 部長	小坂 樹徳 (内科系科学)
副部長	水越 治 (外科系科学)
幹 事	伊藤 正男 (生理科学)
"	岡田 晃 (社会医学)

(注) カッコ内は、所属部・専門

「対外報告」について

本会議では、第13期になってから、その意思の表出の形態の一つとして、各部・委員会がその審議結果をとりまとめたものを、総会又は運営審議会の承認を得て、外部に発表する「報告」(通称「対外報告」と言っている。)というものができるようになった。ただし、この対外報告は、日本学術会議全体の意思の表出ではなくて、当該対外報告をとりまとめた部・委員会限りのものである。

第13期には、数多くの対外報告が総会又は運営審議会の承認を得て出されている。ここでは、すでに、この日本学術会議だよりで紹介されているものを除いた対外報告の題目のみを以下に紹介する。

- ・物理学研究連絡委員会報告—大型ハドロン計画の推進について
- ・化学研究連絡委員会報告—全国的視野に立つ化学の新しい研究体制について
- ・第5常置委員会報告—公文書館専門職員養成体制の整備について
- ・遺伝医学研究連絡委員会報告—「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議最終まとめ」についての意見
- ・第4部報告—上級研究員制度(仮称)の新設について(基礎科学振興・充実のための一方策)

第14期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第14期日本学術会議会員の概要を以下に紹介する。(カッコ内は前期)

1 性別	男子 208人 (207人)	女子 2人 (3人)							
2 年齢別	50~54歳 5人	55~59歳 39人	60~64歳 85人	65~69歳 67人	70~74歳 13人	75~79歳 1人			
	<table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>〔最年長 76歳 (77歳)</td> </tr> <tr> <td>〔最年少 51歳 (48歳)</td> </tr> <tr> <td>〔平均年齢 63.1歳 (61.6歳)〕</td> </tr> </table>						〔最年長 76歳 (77歳)	〔最年少 51歳 (48歳)	〔平均年齢 63.1歳 (61.6歳)〕
〔最年長 76歳 (77歳)									
〔最年少 51歳 (48歳)									
〔平均年齢 63.1歳 (61.6歳)〕									
3 勤務機関及び職名別	(1) 大学関係								
	国立大学	73人 (101人)	公立大学	5人 (6人)	私立大学	88人 (77人)			
	その他	1人 (3人)	計	167人 (187人)					
	(2) 国公立試験研究機関・病院等 8人 (9人)								
	(3) その他								
	法人・団体関係	13人 (3人)	民間会社	7人 (3人)	無職	15人 (8人)			
	計	35人 (14人)							
4 前・元・新別	前 会 員	109人 (41人)	元 会 員	4人 (6人)	新 会 員	97人 (163人)			
5 地方別 (居住地)	北海道	3人 (5人)	東北	6人 (6人)	関東	132人 (134人)			
	中部	15人 (12人)	近畿	42人 (40人)	中国・四国	4人 (6人)			
	九州・沖縄	8人 (7人)							

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

- ・第5部報告—工学系の大学における産・官・学の研究協力の在り方について
- ・生命科学と生命工学特別委員会報告—生命科学の研究と教育の推進方策について
- ・情報学、学術文献情報、学術データ情報研究連絡委員会報告—情報学振興総合機構の構想について (中間報告)
- ・商学研究連絡委員会報告—大学における商学教育の課題と方向
- ・電子・通信工学研究連絡委員会報告—通信工学の体系化に向けて

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7—22—34

日本学術会議広報委員会 電話 03 (403) 6291

第14期活動計画決まる

昭和63年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、このたび開催した第106回総会において、第14期活動計画と新しい特別委員会の設置を決定しましたので、その概要をお知らせいたします。

日本学術会議第106回総会報告

日本学術会議第106回総会(第14期・第2回)は、10月19~21日の3日間開催された。

今回の総会の主な任務は、第14期日本学術会議の活動の指針となる第14期活動計画を審議し、決定することであった。そのために、「第14期活動計画(申合せ)」と「臨時(特別)委員会の設置について(申合せ)」の2つの総会提案が用意された。

この2つの提案の内容は、前回の臨時総会(本年7月)で設置された第14期活動計画委員会が、慎重に審議を重ねて作成したものであり、またその間に2回の連合部会及び各部会を開いて各会員の意見を聴取の上、調整したものである。

この2つの提案については、第1日目の午前中の総会で、近藤会長から、提案説明が行われるとともに、同日の午後各部会で審議が行われた。

次いで、この2つの提案は、第2日目の午前中の総会の審議に付され、最終的推敲を期す質疑の後、採決が行われ、いずれも圧倒的多数の賛成で可決された(第14期活動計画及び設置された7特別委員会の名称は別掲参照)。

この総会決定により、新たに設置された7特別委員会については、第2日目の午後開催された各部会で、各都ごとに割り当てられた委員定数により、委員の選出が行われた。

次いで、翌第3日目の午前中には、各特別委員会の第1回目の会議が開かれ、それぞれ委員長・幹事の選出が行われるとともに、今後の審議予定等について審議がなされるなど、早速その活動が開始された。

第2日目の午後には、1時から2時間半にわたって「総会中の自由討議」が行われた。これは、会員のための一種の勉強会で、総会行事の一環として行われてきたものである。今回は、第14期活動計画案を審議する過程で、会員間で特に討議が活発に行われ、関心が高かった課題を取り上げて行われた。まず、島袋嘉昌第3部会員(経営学)から「学術的・総合研究」について意見の発表の後、関連して、石井吉徳第5部会員(資源開発工学)から発言があり、続いて、井口潔第7部会員(外科系科学)から「人間の科学」について、中川侃第2部会員(政治学)から「紛争学・平和学」について、中川昭一郎第6部会員(農業総合科学)から「農業・農村問題」について、大島康行第4部会員(生物科学)から「IGBP(地球圏-生物圏国際協同研究計画)」について、それぞれ意見の発表が行われた。

第14期活動計画

我が国の科学・技術は戦後目覚ましい発展をとげ、経済の高度成長とともに、国民生活の向上に多大の貢献をしてきた。しかしながら、近年世界的規模での経済・社会環境や地球生態系の激しい変化を背景に、科学・技術の在り方に様々な問題が生じている。その中には、科学・技術と人間との係わり方の根源を問直すようなものや、学問諸分野の再編成を求めるものも含まれている。また、国際社会における我が国の地位の向上も加わって、学術の面での我が国の貢献に対する国際的期待はますます強まっている。

日本学術会議は、創設以来、科学者や学術研究団体との連携の下に、その目的・職務の遂行に努力し、我が国の学術研究体制の整備についての重要な勧告等を行い、研究所の設立などを含めて数々の業績をあげてきた。また、国際協力事業への参加を始めとして、世界の学界と提携しつつ学術の進展に貢献してきた。しかしながら、創設後40年を迎えた現在、学術を取り巻く状況は、国際的にも国内的にも著しい変化を生じた。このような状況を踏まえて、第14期日本学術会議は、本会議の創設以来の基本的精神を引き続き堅持しながら、なお一層の成果をあげるべく努力するものである。

日本学術会議は、我が国の学術に関する重要事項を自主的に調査審議し、その実現を図る機関としての使命と役割を確認した上で、会員の科学的知見を結集し、時代の要請に即応しつつ将来を見通した基本的理念を確立し、我が国における学術研究の一層の推進を図るために、本会議の本来の目的を、次の視点から実現することが必要であると認識した。

人文・社会及び自然科学を網羅した日本学術会議は、全学的視野に立ち、学術研究団体を基盤とする科学者の代表機関であることを認識して、全科学者の参加と意見の集約を真摯に図らなければならない。さらに、本会議が集約した科学者の意見が政策に反映するよう、他の学術関係諸機関と協議の上、その役割分担を明確にしつつ、これらとの連携の強化を図る必要がある。

また、学術研究団体を基盤とする日本学術会議は、関係ある学術研究団体等から推薦された科学者を中心として構成される研究連絡委員会の重要性を認識し、その活動を強化するとともに、学術研究団体の活動を助長し、研究基盤の強化を図り、高度化する学術の発展に貢献する必要がある。

我が国の科学者を内外に代表する機関である日本学術会

議は、国際社会における我が国の地位の向上と海外諸国の期待にこたえて、学術の分野における国際協力を飛躍的に拡大する必要がある。

日本学術会議は、真理を探究するという理念に立脚し、社会に開かれた学術の在り方と国際性を重視し、その健全な発展を図るため、学問・思想の自由の尊重と研究の創意への十分な配慮の下に、長期的かつ大所高所の視点に立ち、創造性豊かな研究を進展させることが必要である。

日本学術会議は、以上の諸点を踏まえ、科学者の総意を代表してその精神を高揚し、21世紀に向けて学術体制及び研究・開発の望ましい在り方を検討して、我が国の学術政策に指針を与えることにより、国民の期待にこたえとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献することを期するものである。

1. 重点目標

第14期活動計画の重点目標は、次のとおりとする。

(1) 人類の福祉・平和及び自然との係わりを重視する学術の振興

科学・技術の著しい発展は、人間生活を豊かにすると同時に、現代社会の高度な複雑化とあいまって、人間社会に新たな緊張をもたらし、人類の福祉・平和及び自然環境を脅かすのではないかと疑念を招いている。人類の福祉・平和及び自然との係わりについて十分に配慮しつつ、学術の総合的振興を図ることは、21世紀へ向けての極めて重要な課題である。これは、人文・社会及び自然科学を網羅した本会議の特長を十分に発揮してこそ可能となるものである。学術の振興と発展の人間、社会及び自然への望ましい貢献、好ましくない影響の防止について具体的構想を樹立し、あわせてこれに対応する社会の体制整備に明確な指針を提示する。

なおまた、今日の社会的現実が提起している複雑な問題を解決するには、既成の個別的研究領域のみでは十分に対応し得ない。直接に関係する研究だけでなく、広く諸科学が積極的に関与すべきであることを十分に考慮し、多くの研究領域が、その独自性を保ち一層の深化を図るとともに、共同の努力を行い、研究の内容、学問体系の変革にまで進むことによって、総合的な研究の在り方を追求することが必要である。

(2) 基礎研究の推進と諸科学の整合的発展

学術の発展には、基礎研究の推進が不可欠であることは言をまたない。我が国の学術の国際的地位の確立を目指し、その発展に向けた長期展望・将来計画を策定するための基盤となる基礎研究の推進に、積極的に取り組む必要がある。

また、学術の領域は広範多岐であり、それぞれの領域ごとに方法論も異なり、研究者の求めるものに大きな違いがあることを十分に考慮し、それぞれの研究者の声を聞き、それぞれに適した育成策を講ずる必要がある。それと同時に、学術研究の動向を考慮し、いわゆる学際領域や学問の総合化に留意しつつ、諸科学の整合的発展を図ることが重要である。

以上のため、第13期においては、学術研究動向に関する調査研究を行い、我が国の学術水準の国際比較やその発展を阻害する諸因子などを指摘した。今期においては、この調査結果を検討しつつ、これを基礎にして、創造性の基礎となる個人の着想を重視し、革新的研究の強化等を積極的に図るとともに、一方においては、学術研究体制や社会・産業構造等に内在する創造性を阻む負の要因の解消に向けての建設的提言を行

うなど、学術の向上発達のための具体的方策を審議提言していくことが必要である。

(3) 国際関係の重視と国際的寄与の拡大

学術研究は、本来、真理の探究を目指す知的活動であり、その成果は広く人類共通の資産として共有されてきた。そのことから、学術の国際交流は、学術研究にとって内在的な要請であり、その在り方に常に関心を払う必要があることは言うまでもない。

一方で、我が国の国際的地位の向上に伴い、その学術研究が国際的貢献を果たすことに対する要請は、一層強まってきている。特に国際平和の推進や環境問題の解決等、いわゆる地球的あるいは国際的規模の課題について、我が国の研究を充実させつつ、全世界の科学者との協力を拡大することへの要請が増大してきている。

国際的あるいは二国間の共同研究、技術協力、技術移転等の在り方は、各国の政治、経済、社会に重大な影響を及ぼす。偏ったナショナリズムの立場を排しつつ、学術の健全な発展を促進するための国際的コンセンサスの追求に我が国も努力をするとともに、相互協力と相互依存の下に国際社会に対応していくために開かれた我が国自体の学術研究体制の整備が求められている。

以上のような状況から、本会議が築いてきた国際学術交流・協力の在り方についての諸原則と実績を踏まえつつ、学術の国際交流・協力の飛躍的な拡充強化を図り、国際的寄与を格段に拡大することが極めて重要である。

2. 具体的課題(要旨)

次の課題を選定した。

- (1) 科学者の倫理と社会的責任
- (2) 学術研究の長期的展望
- (3) 研究者の養成
- (4) 研究基盤の強化と研究の活性化
- (5) 学術情報・資料の整備
- (6) 学術研究の国際交流・協力の飛躍的拡大
- (7) 国際対応への積極的取組み
- (8) 平和及び国際摩擦
- (9) 人間の科学
- (10) 医療技術と社会
- (11) 生命科学と生命工学
- (12) 農業・農村問題
- (13) 資源・エネルギー問題
- (14) 人間活動と地球環境
- (15) 高度技術化社会

3. 具体的課題への対処及び臨時(特別)委員会設置の基本方針等(省略)

◆ 今回の総会決定により設置された特別委員会 ◆

- ・ 平和及び国際摩擦に関する特別委員会
- ・ 医療技術と社会に関する特別委員会
- ・ 生命科学と生命工学特別委員会
- ・ 農業・農村問題特別委員会
- ・ 資源・エネルギー問題特別委員会
- ・ 人間活動と地球環境に関する特別委員会
- ・ 高度技術化社会特別委員会

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話 03 (403) 6291

会 員 異 動

<新入会員>

(氏 名)	(所 属)	(住 所)	(①テーマ ②材料)
村上 弦	東京医歯大・解剖Ⅱ	〒113 文京区湯島1-5-45	①体節の分化 ②ニワトリ・ウズラ
永山 正雄	国立東京第2病院神経 内科	〒152 目黒区東が丘2-5-1	①神経組織の再生・修復
（筈）清水 克彦	都立大・理・生物	〒158 世田谷区深沢2-1-1	①形態形成・細胞分化 ②ウニ
（筈）桂 奏	京都府医大・病理Ⅱ	〒602 京都市上京区河原町通 広小路上ル	①受精・着床 ②マウス
（筈）鎌田 康之	早大・教育・生物	〒160 新宿区西早稲田1-6-1	①DNA修復と細胞分化 ②ウニ
浅本 憲	福井医大	〒910-11吉田郡松岡町下合月	①神経発生
小田 裕子	帝京大・薬・生物化学	〒199-01津久井郡相模湖町 寸沢嵐1091-1	①動物レクチン ②ニワトリ, ヒト, マウス
林 基治	京大・霊長類研	〒484 犬山市宮林	①脳内神経ペプチド ②サル
徳永 智之	日本全薬工業・中央研	〒963-01郡山市安積町笹川字 平ノ上1-1	
宮田 雄平	日本医大	〒113 文京区千駄木1-1-5	①神経系の発生・分化 ②ラット
米谷 尚子	丸紅飼料(株)	〒675-13小野市新部町小垂1292	①トランスジェニック マウス ②マウス
（筈）小阪美津子	阪大・微生物病研	〒565 吹田市山田丘3-1	
（筈）佐藤 元信	東北大・理・生物	〒980 仙台市荒巻字青葉	
（筈）飯尾 明生			
（筈）鈴木 一好	筑波大・生物科学	〒305 つくば市天王台1-1-1	①有性的細胞融合 ②細胞性粘菌
（筈）田畑 純	広大・総合科学	〒730 広島市中区東千田町 1-1-89	①アフリカツメガエルの 初期発生 ②アフリカツメガエル

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ ②材料)
⑨羽畑 祐吾	筑波大・生物科学	〒305 つくば市天王台1-1-1	①有性的細胞融合 ②細胞性粘菌
⑨阿部 知顕	東北大・理・生物	〒980 仙台市荒巻字青葉	①細胞分化, 細胞増殖 ②細胞性粘菌
⑨大森 丘	東北大・理・生物	〒980 仙台市荒巻字青葉	①細胞周期と細胞分化 ②細胞性粘菌
⑨雨貝 愛子	東北大・理・生物	〒980 仙台市荒巻字青葉	①マクロシスト形成 ②細胞性粘菌
⑨橋本 尚子	お茶の水女子大・館山 臨海	〒294-03館山市香11	①卵成塾における卵核胞 内因子 ②ヒトデ
⑨橋戸 和夫	阪大・微生物病研	〒565 吹田市山田丘3-1	①マウス胚発生 ②マウス
⑨沢田 健	阪大・微生物病研	〒565 吹田市山田丘3-1	①マウス生殖細胞の分化 ②マウス
⑨小池 学	東北大・農・畜産	〒980 仙台市堤通雨宮町1-1	
⑨豊泉 龍児	東大・理・動物	〒113 文京区本郷7-3-1	①細胞行動の解析 ②ニワトリ胚
⑨田嶋 克史	山形大・医・病理Ⅱ	〒996-23山形市蔵王飯田字 西ノ削	①造血器発生 ②ニワトリ
⑨近藤 勝美	基生研・形態形成	〒444 岡崎市明大寺町字 西郷中38	①器官形成 ②霊長類・有尾類
岡山 実	国立名古屋病院 臨床研究部	〒460 名古屋市中区三の丸 4-1-1	①造血微小環境 ②ウサギ骨髄
倉持 朗	埼玉医大・皮膚	〒350-04入間郡毛呂山町 毛呂本郷38	①神経冠
鯨島 功一	パナファーム・ラボ	〒869-04宇土市栗崎町1285	

<所属・住所変更>

(氏名)	(所属)	(住所)
岩田 文 男	釧路公立大・教養・生物	〒 085 釧路市芦野 4-1-1
野呂 知加子	新技術開発事業団	〒 134 江戸川区西葛西 5-6-17
西田 宏 記	神大・教養・生物	〒 657 神戸市灘区鶴甲 1-2-1
小畑 秀 一	名大・医・解剖Ⅲ	〒 466 名古屋市昭和区鶴舞町 65
桜井 隆 繁	福島県立医大・中央研	〒 960 福島市光が丘 1
中村 治		〒 569 高槻市西真上 2-21-11 (自宅)
中津 武	薬安研・光支所	〒 743 光市光井字武田 4720
宮崎 俊 一	東京女子医大・生理Ⅱ	〒 162 新宿区河田町 8-1
太田 博 巳	北海道立水産孵化場	〒061-14 恵庭市北柏木町 3
中江 裕 樹	東芝総研・基礎研	〒 210 川崎市幸区小向東芝町 1
森沢 正 昭	東大・理・臨海	〒238-02 三浦市三崎町小網代 1024
田代 康 介	九大・理・生物	〒 812 福岡市東区箱崎 6-10-1
倉田 祥一朗	東大・薬・微生物	〒 113 文京区本郷 7-3-1
舟橋 淳 一	名大・理・分子生物	〒 464 名古屋市千種区不老町
高本 薫	京都府医大・生物	〒 603 京都市北区大將軍西鷹司町 13-2
林 真 一	熊大・医・免疫病理	〒 862 熊本市本荘 2-2-1
嶋田 拓	広大・理・動物	〒 730 広島市中区東千田町 1-1-89
小松 靖 彦	相模中央化学研	〒 229 相模原市西大沼 4-4-1
金井 昭 夫	東大・薬・薬品化学	〒 113 文京区本郷 7-3-1
旭 健 一	理化研・植物	〒351-01 和光市込沢 2-1
沢田 均	東工大・理・生命理学	〒 152 目黒区大岡山 2-12-1
白井 浩 子	岡山大・理・臨海	〒701-43 邑久郡牛窓町鹿忍 130
沢田 美智子	東工大・理・生命理学	〒 152 目黒区大岡山 2-12-1

<退会>

高橋 淑子, 八田 公平, 古川 秀樹, 古野 伸明, 来原 兄忠, 河野 剛志, 加藤 洋一
 片島 亮, 渋谷 徹, 只野 正志, 只野 柳, 本林由美子, 奈良 典明, 増井 徹
 増田 秀雄, 羽地 達次, 高山 洋一, 齊藤 修治, 遠藤 剛, 高久保文恵, 清水 信幸
 三木 馨, 磯合 敦, 三田 勲司, 木村 友厚, 橋本 孝二, 谷口 泰史, 上田 泰次
 水野美賀子, 小島有加利, 濱畑 紀

〔賛助会員〕

- | | | |
|---|------|---|
| タイプ別コラーゲン抗体は(株)アドバンスへ | 〒103 | 中央区日本橋小舟町5-7
TEL 03-667-1551 |
| 組織培養はパイレックスコーニングの岩城硝子(株) | 〒100 | 千代田区丸の内3-2-3
TEL 03-214-7401 |
| 生物学・生態学洋書のことならグリーン洋書(株) | 〒211 | 川崎市幸区小倉610-1-506
TEL 044-533-0470 |
| (株)武田薬品工業中央研究所 | 〒532 | 大阪市淀川区十三本町2-17-85
TEL 06-300-6835 |
| 試薬・機器の御用命は名古屋片山化学(株)まで | 〒460 | 名古屋市中区丸の内3-11-4
TEL 052-971-6531 |
| 日製産業株式会社 | 〒453 | 名古屋市中村区名駅4-6-18
(名古屋ビル内)
TEL 052-583-5846 |
| バイオテクノロジーで未来をひらく(株)バイオ科学研究所 | 〒990 | 山形市城西町5-34-5
TEL 0236-44-5030 |
| 発生学をはじめとする生物科学書の出版社・培風館 | 〒102 | 千代田区九段南4-3-12
TEL 03-262-5256 |
| 藤本理化 | 〒113 | 文京区向ヶ丘2-34-12
TEL 03-827-8151 |
| 最良の選択フェルコン組織培養器具ベクトン・ディッキンソン・オーバーシーズ Inc. | 〒107 | 港区赤坂8-5-84 島藤ビル
TEL 03-403-9991 |
| 三菱化成生命科学研究所 | 〒194 | 町田市南大谷11
TEL 0427-24-6226 |
| マウス・モノクローナル抗体(アロ抗体)は明治乳業(株) | 〒104 | 中央区京橋2-3-6
TEL 03-271-4333 |
| 試薬及び理化学機器販売理科研(株) | 〒463 | 名古屋守山区元郷2-107
TEL 052-798-6151 |
| 科学の技術に奉仕する理工学社 | 〒113 | 文京区本駒込5-9-10
TEL 03-928-5211 |
| 次代を担うバイオテクノロジー和研薬(株) | 〒606 | 京都市左京区北白川西伊織町25
TEL 075-721-0491 |

(50音順)

学術研究用人工海水

Jamarin[®]

■特 長

1. 各元素の含量は外洋水の分析値による。
2. 完全に溶解する。
3. 分割使用できる。
4. 水質は極めて安定で自然海水のようなバラツキがない。
5. 経時変化しない。
6. 研究の目的により色々な種類がある。
7. 殆んどすべての海の生物に使用できる。

■主要元素の含量 (g/l)

Cl	16.947	Na	9.311	Mg	1.137
S	0.774	Ca	0.395	K	0.344

■種 類

1. JAMARIN U(一般用)
極めて易溶、Triple strengthまで溶解可能。
ウニ囊胚形成率 *Anthocidaris crassispina*...98%
2. JAMARIN S(滅菌用)
オートクレーヴィングにより濁りや、沈澱を生じない。
ウニ囊胚形成率 *Anthocidaris crassispina*...96.3%
3. その他のJamarin
Ca-free JAMARIN
Ca, Mg-free JAMARIN
Sulfate-free JAMARIN
4. My Sea
ポリ袋入り粉剤だけの人工海水です。実験動物の飼育にお使い下さい。

■文 献

1. Jamarin U: Katow, H. (1986) Behavior of sea urchin primary mesenchyme cells in artificial extracellular matrices. *Exp. Cell Res.* 162: 401-410.
2. Jamarin S: Umezawa, H., Okami, Y., Kurasawa, S., Ohnuki, T., Ishizuka, M., Takeuchi, T., Shiio, T. and Yugari, Y. (1983) Marinactan, antitumor polysaccharide produced by marine bacteria. *J. Antibiot.* 36: 471-477.
3. Ca-free Jamarin: Shirai, H., Ikegami, S., Kanatani, H. and Mohri, H. (1982) Regulation of sperm motility in starfish. I. Inhibition of movement. *Develop., Growth and Differ.* 24: 419-428.
4. Ca, Mg-free Jamarin: Mitsunaga, K., Fujino, Y. and Yasumasu, I. (1987) Provable role of Allylthiocyanate-sensitive H⁺, K⁺-ATPase in spicule calcification in embryos of the sea urchin, *Hemicentrotus pulcherrimus*. *Develop., Growth and Differ.* 29: 57-70.
5. Sulfate-free Jamarin: Yamaguchi, M. and Kinoshita, S. (1985) Polysaccharides sulfated at the time of gastrulation in embryos of the sea urchin *Clypeaster japonicus*. *Exp. Cell Res.* 159: 353-365.
6. My Sea: Lutz, D.A., Inoué, S. (1986) Techniques for observing living gametes and embryos. In *Methods in Cell Biology* (T. E. Schroeder, ed.), Vol. 27, p. 91. Academic Press.

■価 格 (送料別)

	20ℓ用	5ℓ用	2ℓ用
Jamarin S	2,000	1,000	
Jamarin U	1,600	800	
Ca-free Jamarin		1,500	750
Ca, Mg-free Jamarin		1,500	750
Sulfate-free Jamarin		1,500	750
My Sea	25ℓ用 1,200	(10個単位でお願いします)	

お問い合わせ、ご注文は直接下記へお願いします。

ジャマリン ラボラトリー

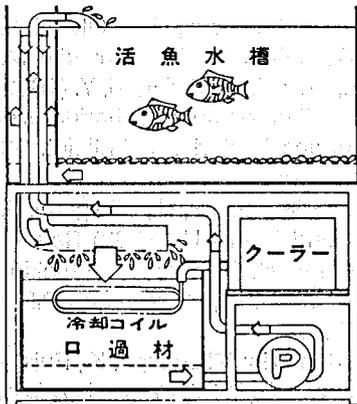
〒536 大阪市城東区鳴野西2丁目11番5号 電話 大阪(06)968-3154

海水魚飼育研究用装置

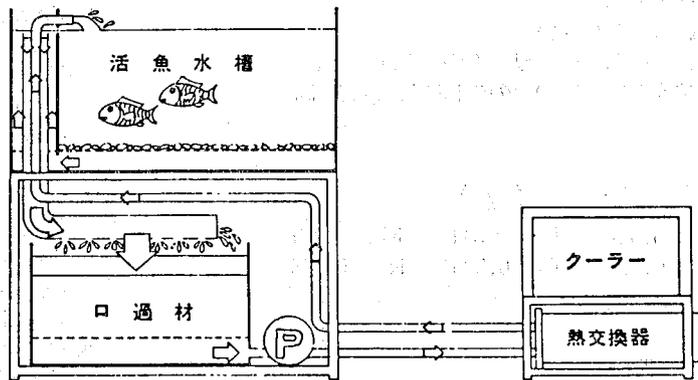
自動温度制御で強力冷却

- 経済的な節電タイプ
高性能冷凍機は運転時間が少なくすみ、とても経済的です。
- 抜群の冷却効果
冷却面積の大きな冷却器が効率よく海水を冷やします。
- 確実な水温制御
信頼性の高いサーモコントローラを使用し、自動的に正確な水温制御が出来ます。

● 投入タイプの設置例とその循環図



● 循環タイプの設置例とその循環図



● 投入タイプ仕様表

機種	使用限度水量	冷凍機出力
TKC 130	150ℓ 以下	125 W
TKC 200	300ℓ 以下	200 W
TKC 300	600ℓ 以下	300 W
TKC 400	800ℓ 以下	400 W
TKC 600	1,200ℓ 以下	600 W
TKC 750	2,000ℓ 以下	750 W
TKC1,100	3,000ℓ 以下	1.1kW
TKC1,500	5,000ℓ 以下	1.5kW
TKC2,200	7,500ℓ 以下	2.2kW

● 循環タイプ仕様表

機種	使用限度水量	冷凍機出力
TKC 200C	300ℓ 以下	200 W
TKC 300C	600ℓ 以下	300 W
TKC 400C	800ℓ 以下	400 W
TKC 600C	1,200ℓ 以下	600 W
TKC 750C	2,000ℓ 以下	750 W
TKC1,100C	3,000ℓ 以下	1.1kW
TKC1,500C	5,000ℓ 以下	1.5kW
TKC2,200C	7,500ℓ 以下	2.2kW

- 使用水量により機種を選定して下さい。多少大きめの機種を選ばれた方がより効果的です。
- 使用限度水量は外気温32℃・冷却水温18℃で算出してあります。機械の設置場所、水槽の材質・環境の差異等により使用限度水量が異なります。

三光医理化株式会社

東京都豊島区要町2丁目8番地

TEL

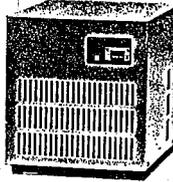
(959) 3827

(955) 4060

■ 加熱冷却ユニット

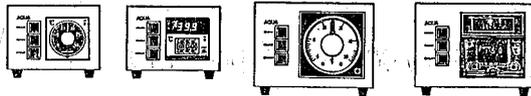
クーラー・ヒーターはチタン製。淡水はもちろん海水や薬品液にも使用できる高性能の循環式小型加熱冷却装置です。

形式	クーラー	ヒーター	概略水量	価格
HC061A-3	65W	300W	120 l	¥196,000
HC101A-3	100W	300W	160 l	¥207,000
HC131A-5	130W	500W	260 l	¥220,000
HC201A-5	200W	500W	360 l	¥237,000
HC301A-5	300W	500W	670 l	¥298,000
HC401A-5	400W	500W	1000 l	¥335,000



■ 温度コントローラー

温度を精度良く一定に保つことができます。循環ポンプなどの使用に便利な予備コンセント付き。警報付きなど各種あります。



形式	設定方式	温度指示	温度目盛	制御方式	価格
TA200※	アナログ	なし	-50 ~ 50°C	比例式	¥26,000
TA201-S	アナログ	全指示	0 ~ 50°C	比例式	¥38,000
TD202※	デジタル	偏差指示	0 ~ 99.9°C	比例式	¥29,000
TA300-S	アナログ	なし	0 ~ 50°C	三位置	¥37,000
TA301-S	アナログ	全指示	0 ~ 50°C	三位置	¥44,000
TD302-S	デジタル	偏差指示	0 ~ 99.9°C	三位置	¥48,000
TD303-S	デジタル	全指示	0 ~ 99.9°C	三位置	¥58,000

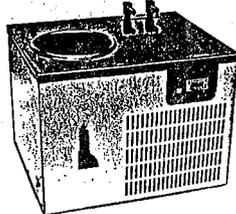
注) 測温抵抗体と併せてご使用下さい。

※印はサーミスター測温体 ¥1,800(空気用) ¥3,000(水用)
無印は白金測温体シース材質 SUS304 ¥7,900 Ti ¥12,000

■ 低温恒温循環水槽

実験台上でも使用できるように極めてコンパクトにまとめた低温恒温循環水槽です。水温は低温から高温までを任意に設定することができます。外部循環機能をそなえておりますので恒温水槽のほか、カラムスの冷却、保温など幅広い用途があります。

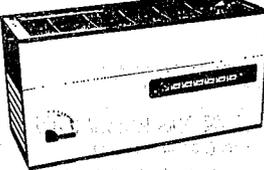
形式: CT 65-300-S
使用温度範囲: 0 ~ 50°C
温度調節精度: ±0.1°C
外形寸法: W420 × D330 × H340
槽内寸法: φ153 × H187
冷凍機: 65W
ヒーター: 300W
価格: ¥250,000



■ 温度勾配装置 (ウォーターバス)

温度調節水槽はそれぞれ独自の温度に設定できます。精度の高い恒温が得られます。温度の設定はデジタル式。振とう装置付きもあります。

形式: TGW-3(三連)/TGW-6(六連)
使用温度範囲: 0 ~ 50°C
温度調節精度: ±0.05 ~ ±0.1°C
槽内寸法: 150 × 260 × 150 × 3 / × 6
冷凍機: 200W/300W
ヒーター: 90W × 3 / × 6
価格: ¥620,000/¥780,000



■ 恒温コンテナ

蓄冷体の融解速度を微妙にコントロールして恒温を保つ小型の恒温輸送用コンテナです。凍結したら困るあらゆる物体の低温での恒温輸送に威力を発揮します。商用電源、大型バッテリーを使用しないので動性に富みどこでも使えます。

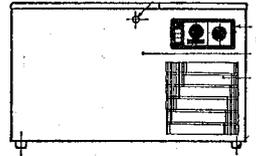
形式: CTC 421
外形寸法: 407 × 193 × H298
庫内寸法: 246 × 122 × H200
コントロー: デジタル設定、デジタル表示
価格: ¥78,900 (蓄冷体-15°C付)



■ 恒温ボックス

四面全面加熱冷却の新方式による高性能の恒温ボックス。庫内は精度よく一定温度に保たれ霜が付かず乾燥しません。

形式: CTA 452-1
外形寸法: W700 × D460 × H440
槽内寸法: φ380 × H350
温度範囲: 10 ~ 40°C
冷凍機: 65W ヒーター: 100W
蛍光灯: 32W タイマー: 24h
価格: ¥350,000

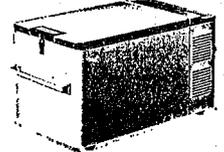


■ ポータブル インキュベーター

小型軽量、持ち運びが容易です。庫内は精度よく一定温度に保たれます。冷凍機とヒーターを備えていますので庫内を低温(0°C)から高温(40°C)まで任意の温度に設定することができます。電源は交流・直流両用です。車載用として搬送、野外での使用の他研究室内で利用することができます。

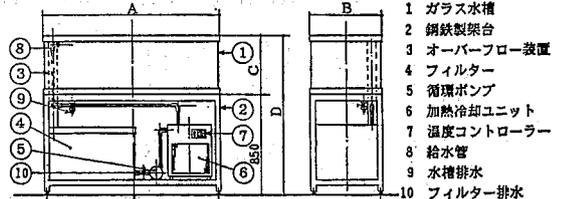
透明蓋付もあります。

形式: CTH 305
外形寸法: 631 × 360 × H373
槽内寸法: 350 × 280 × H260
価格: ¥187,000(12V用)



■ 水生生物環境調節装置

各種の魚介類が飼育できます。各機器はユニット形式を採用。点検管理が容易です。水槽、加熱冷却ユニット、温度コントローラー、フィルター、循環ポンプなどは全て海水仕様です。



形式	水 槽	クーラー	ヒーター	価格
ARA 9.5-101A-5	900 × 500 × 450	100W	500W	¥459,000
ARA 9.6-131A-5	900 × 600 × 600	130W	500W	¥663,000
ARA12.5-131A-5	1,200 × 500 × 500	130W	500W	¥678,000
ARA12.6-201A-5	1,200 × 600 × 600	200W	500W	¥858,000
ARA15.6-301A-10	1,500 × 600 × 600	300W	1,000W	¥1,005,000
ARA15.7-401A-10	1,500 × 750 × 750	400W	1,000W	¥1,297,000
ARA18.6-301A-10	1,800 × 600 × 600	300W	1,000W	¥1,107,000
ARA18.7-401A-10	1,800 × 750 × 750	400W	1,000W	¥1,475,000

三菱化成

なか しべ つ
中標津血清

ライフインダストリーの三菱化成が採血から濾過まで一貫国内生産
最終濾過は孔径0.1 μ mのメンブレンフィルター使用

準胎児血清

生後24時間以内で初乳を飲む前の新生仔牛から採血

新生仔牛血清

生後2週間以内の新生仔牛から採血

成牛血清

1.5才以上の牛から採血

ARMOUR血清

Armour Pharmaceutical Company (U.S.A.) 製造

胎児血清

(Rehatuin® F.S.)

仔牛血清

生後16週間以内の仔牛から採血

何れもロットチェック用サンプルを提供致します。



三菱化成工業株式会社 医薬事業部

〒100 東京都千代田区丸の内2-5-2(三菱ビル)
☎03(283)6791(直通)

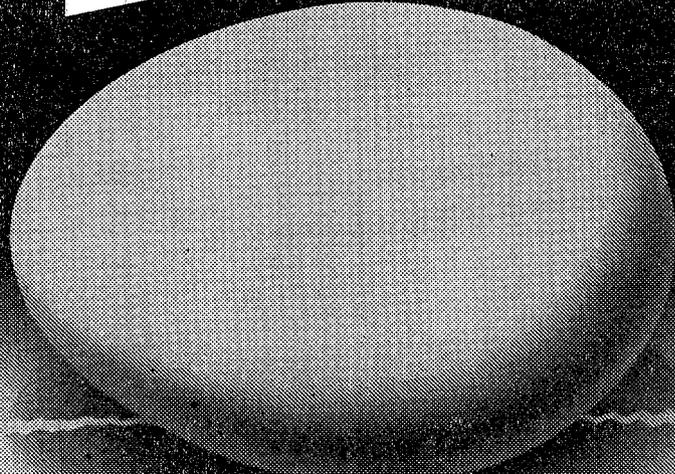
大阪支店化成品部門
☎06(208)4560(直通)

東京支店化成品部門
☎03(283)6100(直通)

名古屋支店化成品部門
☎052(562)2556(直通)

九州支店化成品部門
☎092(291)8891

増殖 エネルギー



増殖を支える大きな力、組織培養用培地 —— 日水製薬から

■ 高压蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルMEM培地①
■ 高压蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln*PR不含	イーグルMEM培地②
■ 高压蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln*PR*KM不含	イーグルMEM培地③
■ 高压蒸気滅菌可能 浮遊培養用 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルMEM培地④
■ 高压蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ * L-Gln*L-Arg*L-Leu*L-Met*L-Phe不含	イーグルMEM培地⑤
■ 高压蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	イーグルBME培地
	イーグルMEMアミノ酸ビタミン培地
■ NaHCO ₃ 不含	ダルベッコ変法イーグル培地①
■ 高压蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	ダルベッコ変法イーグル培地②
■ NaHCO ₃ 不含	199培地
■ NaHCO ₃ 不含	ハムF12培地
■ NaHCO ₃ 不含	RPM I 1640培地①
■ 高压蒸気滅菌可能 NaHCO ₃ *L-Gln不含	RPM I 1640培地②

■ NaHCO ₃ 不含	フィッシャーの培地
■ 高压蒸気滅菌可能 KM含有 NaHCO ₃ *L-Gln不含	ES培地
■ NaHCO ₃ 不含	ハンクス液①
■ NaHCO ₃ *PR不含	ハンクス液②
■ NaHCO ₃ 不含	アール液
	ダルベッコPBS(-)粉末
■ ダルベッコPBS用	金属塩類溶液
■ 無菌凍結乾燥	グルタミン



製造発売元

日水製薬株式会社

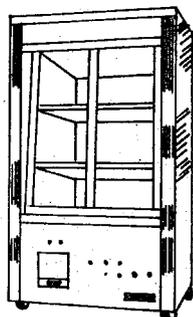
本社 〒170 東京都豊島区巢鴨2-11-1

電話 03(918)8166(代)

営業所 東京・関東・大阪・名古屋・広島・福岡・仙台・札幌

NK式生物研究用機器

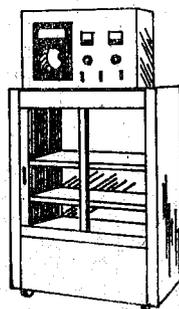
NK式電気低温恒温器(送風循環型) 高精度普及型



型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 開口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	26万円	30.5万円	32万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

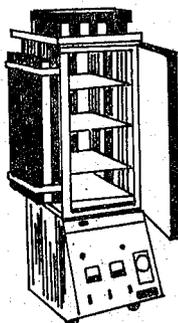
NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます!



型式	LP-150 -3P	LP-200 -3P	LP-300 -3P
仕様			
内法 開口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	49.8万円	53.5万円	60万円

NK式人工気象器

植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派!

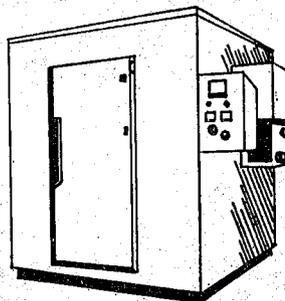


型式	LH-100 -RD型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 開口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 47万円	温・湿 度付 73万円	プログラ ム付 66万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽

組立、移設、増設が思いのまま!

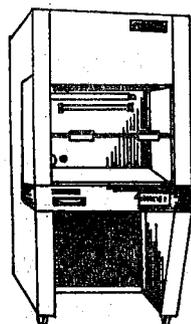


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪1,190,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪1,290,000円
より各種

※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

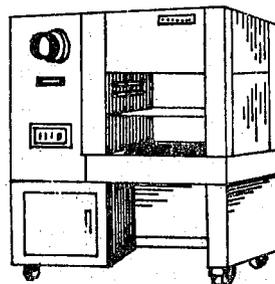
NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥780,000
NKB-VS-1300
¥880,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型)

無菌作業の能率アップに!

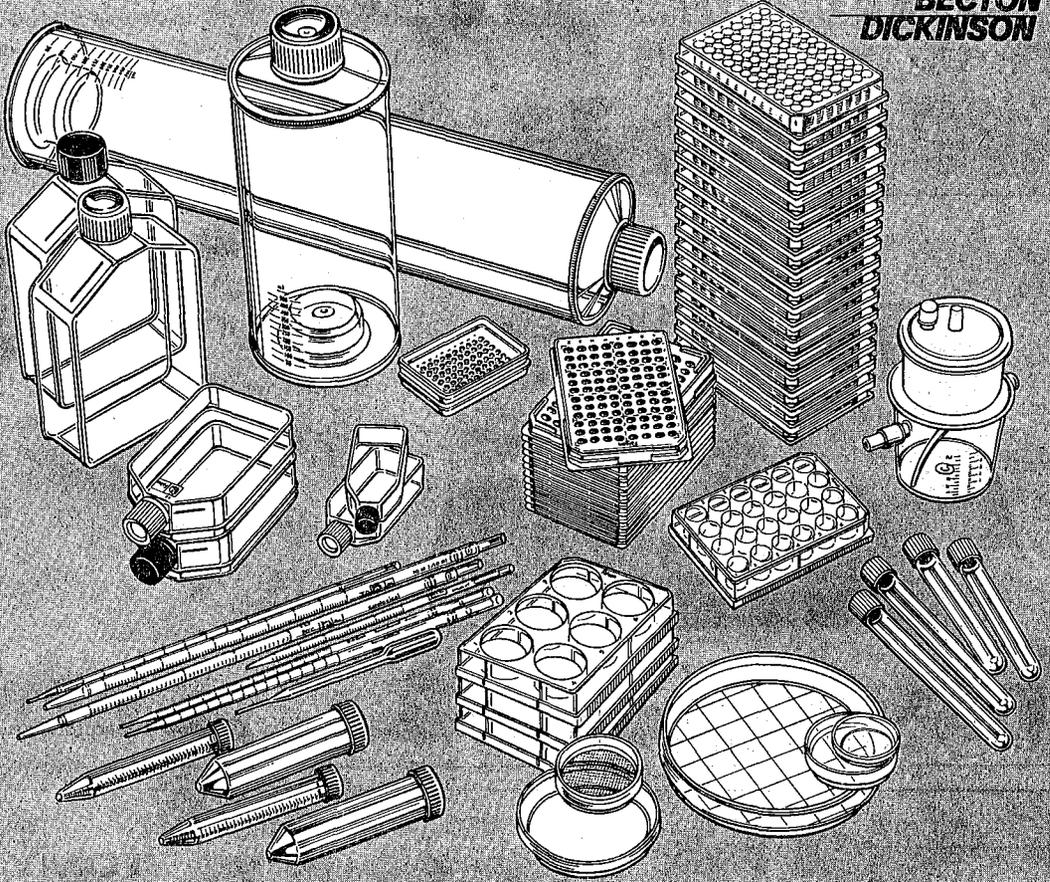


NKB-VW-850
¥1,200,000
NKB-VW-1300
¥1,500,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本社 千550 大阪市西区江戸堀1丁目19番24号 電話 大阪 06(443)0712(代)
東京営業所 千183 東京都府中市緑町7053-4 電話 府中 0423(65)3245(代)
工場 千583 羽曳野市駒ヶ谷5番地47号 電話 羽曳野0729(58)1919(代)

**BECTON
DICKINSON**



1957年、組織培養器具にプラスチックの時代が始まった。 ファルコン組織培養器具

1956年11月、米国 Emeryville の海軍微生物研究所では、人や動物の細胞をポリスチレン製ディッシュで培養することに興味を示しました。このことにいち早く着目したファルコンでは、プラスチック表面における細胞の付着や増殖について研究を進め、1957年ついに組織培養処理を施した高品質のプラスチック製ディッシュの開発に成功致しました。それは、ガラス製器具の使用にと

なうさまざまな問題点を一挙に解決し、組織培養の分野に大きな前進をもたらしました。

そして今日まで、ファルコンの活動は、よりすぐれた組織培養器具を開発することに集中しました。

その成果として、最近ではより高度な表面処理を施したプライマリア組織培養器具をお届けすることもできました。

組織培養の進歩とともに、ファルコンは常に新しい可能性をもとめ続けます。



Falcon

輸入販売元

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
Nippon Becton Dickinson Co., Ltd.

〒107 東京都港区赤坂8-5-34 島藤ビル TEL. 03(403)9991(代)

●B-D、ファルコン、Falcon、プライマリアはベクトン・ディッキンソン アンド カンパニーの商標です。●Becton Dickinson Labwareはベクトン・ディッキンソン アンド カンパニーの事業部です。

製造元

Becton Dickinson Labware

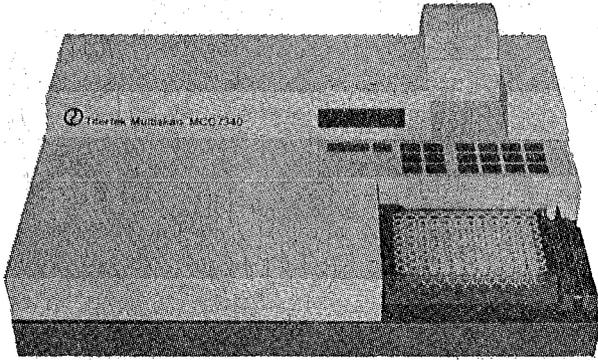
ベクトン・ディッキンソン ラブウェア事業部

Division of Becton Dickinson and Company

紫外外部測定が可能になりました

マイクロプレート用吸光度計

タイターテック マルチスキャンMCC/340



＊紫外外部フィルターを装着！

従来の可視部フィルターに加えて紫外外部フィルターを装着しました。

＊コンピュータ制御可能！

コンピュータによる操作およびデータ取り込みができます。

＊7種類の測定表示モード！



大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

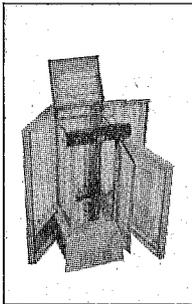
〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164 (代表)

提携



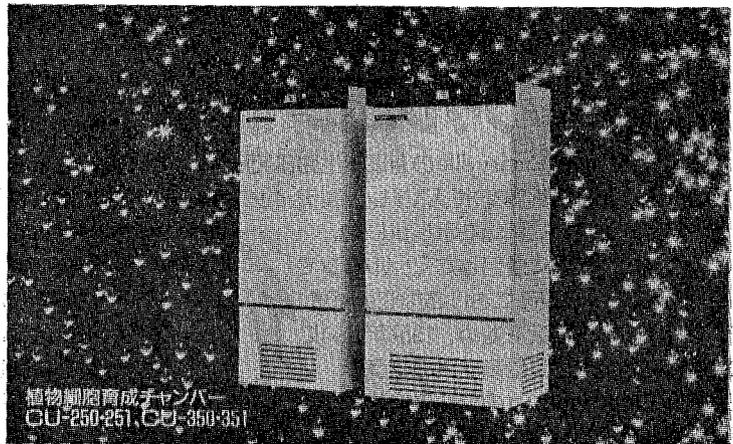
Flow Laboratories

4-8



□ 今ハオの紫外光を遮る——
高湿度・高湿度湿度制御
殺菌とフィルター使用でクリーンな培養環境。
厚板の環境を確実に制御できるフルカバートップ。

植物細胞育成チャンバー



植物細胞育成チャンバー
CU-250-251, CU-350-351

株式会社、トミ精工
本社 03-97-6-0000
札幌 011-742-0000
(松本電機製作所内)
筑波 0297-56-0001
大阪 06-0103-0000
福岡 092-641-6457
(新興精機内)

● 各種育成機器も同時発売
クリーンベンチ、CO2インキュベーター、サーキュレーター、シャーケイ、オリパス倒立型顕微鏡

● 使用温度範囲

+4〜+50℃

● 最大照度 庫内容量
250,000RX 25500R
CU-250・251
18,200RX 35500R
CU-350・351

● 庫内温度の異常上昇、下降を防止する安全機構。

● プログラム運転が可能

CU-251・351

● 除菌装置付き空気循環サイクル。

● 庫内温度の異常上昇、下降を防止する安全機構。

● プログラム運転が可能

CU-251・351

● 除菌装置付き空気循環サイクル。

● 庫内温度の異常上昇、下降を防止する安全機構。

● プログラム運転が可能

CU-251・351

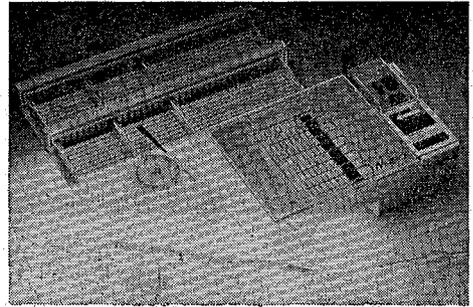
Mupid-2[®]

ミニゲル電気泳動システム《ミューピッド-2》

ミューピッド-2は、泳動槽・パワーサプライ・ゲルメーカーセットを組み合わせたコンパクトな電気泳動システムです。核酸・タンパク質など様々な泳動が可能です。

- お一人に一台以上。
- 安全、軽量、簡単な操作。
- 学生の実習用など教材としても最適。

※部品の別売もしております。

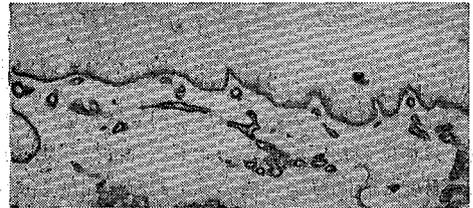


超安価 **¥29,800**

(PAGE調製用カバー、電源及びゲルメーカーセットを含む)

Didets[®] (抗血清シリーズ)

- 全血清(留分)の凍結品、高力価。
- 細胞骨格タンパク質、ホルモン、酵素等に豊富な商品群。



染色例：Type IV Collagen (Bovine Skin)

※Didetsは、(株)アドバンスが製造した免疫研究用試薬に対する登録商標です。

[シリーズ品]	[抗原]	■は新製品
細胞骨格タンパク質	(ウシ)タイプI~IVコラーゲン、(ヒト)タイプIV~Vコラーゲン、(ラット)タイプIコラーゲン、ラミニン、フィブロネクチン、アクチン、ミオシン、チューブリン	
ホルモン	LH-β、HCG、プロラクチン、ACTH、α-MSH、β-MSH、α-エンドルフィン、β-エンドルフィン、メチオニン・エンケファリン、ソマトスタチン、サブスタンスP、ニューロテンシン、VIP、カルシトニン、ガストリンI、S-100タンパク	
酵素	カーボニック・アンヒドラーゼ、グルタメイト・デカルボキシラーゼ、グルタメイト・デヒドロゲナーゼ、ブチル・コリンエステラーゼ、アルカリ・フォスファターゼ、Na ⁺ ・K ⁺ -ATPase	

(免疫動物はすべてウサギです。)

※製品についての詳細は下記までお問い合わせ下さい。

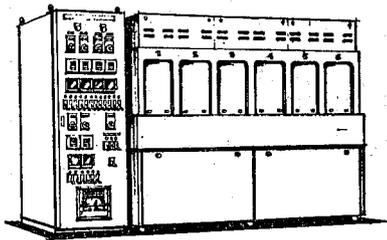
製造元 **株式会社アドバンス** 〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-7 ☎03(667)1551(代)

総販売元 **コスモバイオ株式会社** 〒103 東京都中央区本町4-13-5 第20中央ビル ☎03(663)0723

Aquarex

研究に應える設備です

研究者のニーズにどう対応できるか——できるかぎりの努力をするべきだと考えています。多機種の内から一部製品をご案内いたします。



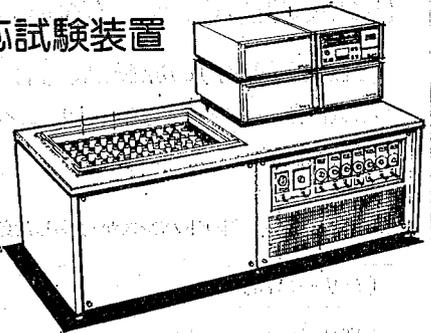
低温水棲生物生理実験装置

低温水棲生物の生理実験用装置。極寒冷地の植物性・動物性プランクトン、ウニ、ヒトデ、ベントス等に最適。水槽・温度調節装置・照明装置を装備。6槽分離独立。温度制御範囲は -5°C ～ $+30^{\circ}\text{C}$ 。照明装置（クールレイランプ、熱線吸収ガラス使用。高照度30,000 Lux。照度・照明時間の自由設定可能。

TG6-1500

卵稚子温度反応試験装置

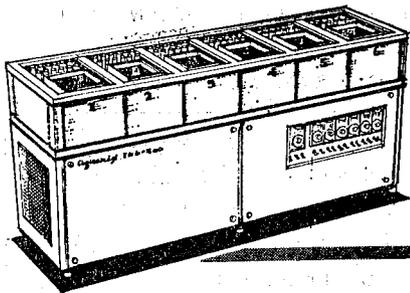
水生生物の卵・稚子の環境温度に対する反応研究用に最適の装置。試験管88本により環境温度勾配を広範囲に一定保持。実験対象の各部位置温度を時間経過に従って記録。照度も自由に選べる照明装置。小型多点温度記録装置が特長です。



TG11-8

卵稚子温度反応試験装置用馴致装置

卵稚子温度反応試験装置（TG11-8）の馴致用装置。本装置は6槽に分離独立。水槽ごとに温度設定が可能。各槽ごとの試験管挿入可能。卵稚子を反応装置（TG11-8）に入れる前準備に、また分類作業に最適。温度制御は正確・広範囲に温度設定が可能。

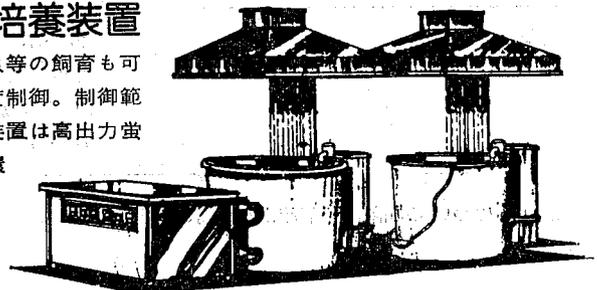


TG6-300

プランクトン培養装置

動植物性プランクトンの海水培養用装置。幼魚・稚魚等の飼育も可能。2ポリエチレン円形2重水槽。外側槽による温度制御。制御範囲 $5\sim 35^{\circ}\text{C}$ 。ヒーター・クーラー自動切換式。照明装置は高出力蛍光灯。光量調節・照明時間の自由変更可能。海水循環酸素補給・水質維持装置付。

AR11D-1500



株式会社 **アクアレックス**

〒143

東京都大田区中央2丁目2番6号

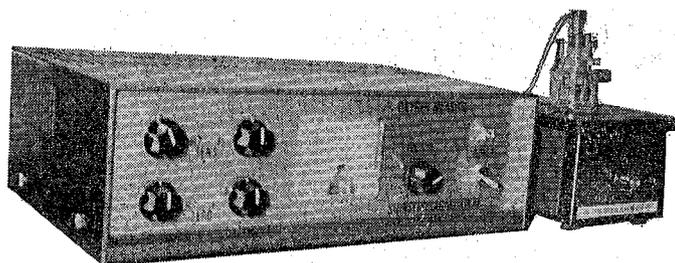
お問合せ

ご相談はお気軽に

☎ 東京 03(778)0202

酸素電極による呼吸測定装置 (溶存酸素による呼吸測定装置)

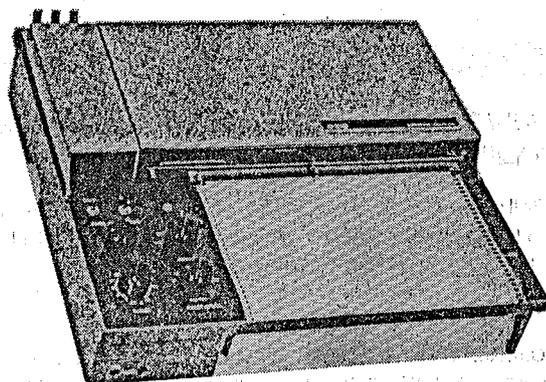
ミトコンダリア及び細胞懸濁液の溶存酸素減少による呼吸率の測定は、古くから行なわれて来ました。懸濁液を入れる密封容器の取扱いはかなりむずかしく、その容器の変更も困難でしたが、この容器は1.5ml~5mlまでの容量の変更が容易であり、試薬を懸濁液に投入したり、懸濁液の一部を密封状態のまま取り出す事が出来ます。セルはウォータージャケットがついていますので精密な温度コントロールが出来、フルスケール10mVの記録計に接続しても御使用できます。



S-1 溶存酸素測定装置

記録計

1mV~10V
フルスケール全幅移動可能
400K Ω ~無限大(レンジによる)
250mm幅
6段変速(標準最少2.5mm/min)
AC100V 50~60Hz



 信誠理化学器械株式会社

〒112 東京都文京区後楽2-21-14

TEL (03) 815-3066(代)

FAX (03) 815-3231

理化学器械・研究設備・分析機器・光学機器

主要特約代理店

オリンパス光学工業(株) 三洋電機特機(株)
ヤマト科学(株) エル・ケーピージャパン(株)
東亜電波工業(株) (株)佐久間製作所
チョウバランス(株) 岩城硝子(株)
住友スリーエム(株) マリソル産業(株)



資 会 社 木下理化学器製作所

名古屋市中区千代田五丁目22番11号

TEL <052> 262-1566 番代

FAX <052> 241-0614

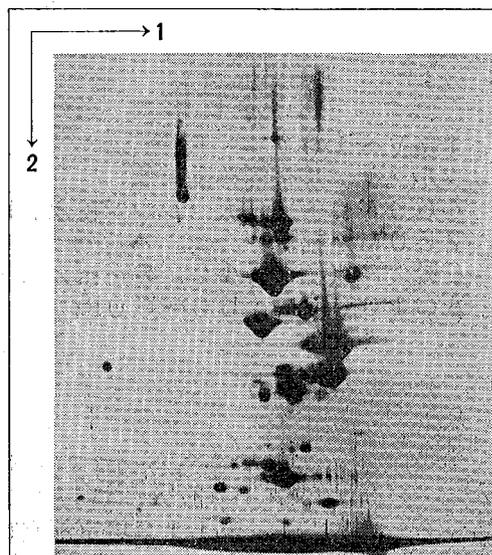
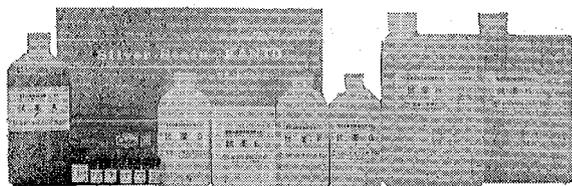
Silver Stain KANTO

電気泳動用銀染色キット

シルバーステインKANTOは、蛋白・核酸を高感度で簡単に検出できます。

シルバーステインKANTOは、現像が緩やかにすすむように調製されています。現像停止のポイントを判断しやすく美しい染色像が得られます。

Cat.No.57650 **Silver Stain KANTO**
電気泳動用銀染色キット・シルバーステインKANTO
スラブゲル (140mm×140mm×1.0mm) 25枚分



O'Farrell 2D-electrophoresis (一次元目はNEPHGE(1)、二次元目は、SDS/PAGE(2))。試料は、筋蛋白5 μ g。

関東化学株式会社 試薬事業本部

103 東京都中央区日本橋本町3-2-8 03(663)7631
541 大阪市東区瓦町3丁目1番地 06(222)2796

自然科学関係の定期刊行物、全集、叢書、単行本 輸入販売

アカデミア洋書株式会社

☎ 113 東京都文京区本郷 2-39-6 大同ビル (☎ 813-9805 / FAX 812-8509)

カタログ 1988年11月号から

1. Developmental Neurobiology of the Frog.
(ed.by E.D. Pollack & H.D. Bibb) 300p, Nov.'88 ¥12,700._
2. (A) The Cell Biology of Fertilization. (ed.by H. & G. Shatten)
384p, Dec.'88 14,000._
(B) The Molecular Biology of Fertilization. 384p, Dec.'88 14,000._
(A) + (B) 23,000._
3. Molecular Biology of Cell Determination and Cell Differentiation.
(by Browder, L.W.) 439p, '88 ※ 16,380._
4. Patten's Foundations of Embryology. 5th ed.
(by B.M. Carlson) 750p, '88 ※ 12,060._
5. In Vitro Fertilization and Embryo Transfer: A Manual of Basic
Techniques. (ed.by D.P. Wolf et al.) 421p, '88 ※ 17,510._
6. Vertebrate Reproduction. (by E.W. Jameson, Jr.) 526p, '88 ※ 13,500._
7. Lepidopteran Anatomy. (by J.L. Eaton) 257p, '88 ※ 10,490._
8. Cell and Tissue Biology: A Textbook of Histology. 6th ed.
(ed.by L. Weiss) 1,200p, 972 illus. '88 ※ 11,000._
9. Development and Maturation of Cerebral Cortex: Cerebral Crtex, Vol.7
(ed.by A. Peters) 510p, 18,900._
10. Control of Cell Proliferation and Differentiation During Regeneration.
(Monog. Developmental Biology, Vol.21) 246pp, 118 figs. '88 30,940._
11. Cell Interactions in Visual Development.
(ed.by S.R. Hilfer & Sheffield, J.B.) 190p, 45 figs. Oct.'88 16,100._
12. Understanding the Brain and Its Development: A Chemical Approach.
(by H.K.M. Yusuf) 300p, '88 13,600._
13. Molecular Biology of the Cell. 2nd ed. (by B. Alberts et al.)
1,350p, Feb.'89 p/h 8,830._/11,690._
14. Cytoskeleton in Cell Differentiation and Development.
(ed.by R.B. Maccioni & Arechaga, J.) 367p, '88 pap. ※ 16,200._
15. Early Development: Frontiers in Molecular Biology.
(ed.by D.M. Glover & Haems, B.D.) late '88 p/h 価格未定

※印は、在庫しております。

御注文をお待ち致します。又、新刊カタログ御希望の方は、当社宛、御請求下さい。

あらゆる研究分野に対応できる多様なシステム。
観察から撮影まで、可能な限り自動化を実現。



全自動写真撮影装置を内蔵。今までにない多様なシステム性と操作性で画像解析、分光測光などの将来的研究ニーズにも充分対応。電動6ヶ穴レボルバー、1×~100×まで完全ケラー照明、写真撮影レンズ4種類内蔵、フィルム面と同じ像が観察できる一眼レフ式ファインダー、視野数26.5φの超広視野など随所に最先端のメカニズムが生きています。しかも、35mm2台+大版1台+TVカメラ1台計4台を同時装着できる3-WAYカメラ。鮮明な像を観察、確実に記録できます。

VANOX-S series
最高級写真顕微鏡システムタイプ

●電動6ヶ穴レボルバー ●対物レンズに連動した照明系の切換えは調光・開閉絞り・視野絞りを自動完了 ●低倍率のピント合わせ ●カメラ選択 ●撮影レンズの切換えなどを自動化 (マニュアル操作も可)

VANOX-T series
最高級写真顕微鏡システムタイプ

●電動6ヶ穴レボルバー ●NDフィルター11段階切換えによる自由調光 ●ボタンによるカメラ選択 ●撮影レンズ4種内蔵 (ターレット切換え)

未知をひらく光学技術

〈仕様〉 ●超広視野接眼(視野数26.5φ) ●鏡筒長定常装置付 ●6ヶ穴電動レボルバー ●右下共軸ハンドル大型ステージ ●各種フィルター内蔵 ●撮影レンズ4種類内蔵 ●全自動写真撮影装置内蔵 ●35mmハーフサイズ撮影、スケール写し込み可 (オプション)

VANOX-S/VANOX-T
最高級写真顕微鏡システム

オリンパス光学工業株式会社
オリンパス販売株式会社
総合代理店

(株)三光オリンパス

新刊!! 哺乳動物によるバイオテクノロジー!

マウスのテラトーマ

— EC細胞による哺乳動物の実験発生学 —

A5判・296頁
定価 3800円
送料 300円

テラトーマの生物学的な知識，EC細胞の種類と成立，EC細胞を用いた初期胚の細胞生物学・分子生物学的研究，EC細胞のキメラ動物への応用などについて，研究の進展を紹介し，その理論と実験技術を解説。医学・生物学・薬学など発生学，遺伝学に関心を持つ方がたの絶好の参考書です。

国立遺伝学研究所 森脇和郎 / 序
前国立遺伝学研究所 野口武彦 / 編集
鹿児島大学教授 村松 喬

哺乳動物の初期発生

— 基礎理論と実験法 —

B5判・480頁
定価 12000円
送料 400円

初期発生の基礎理論をはじめに説明し，ついで初期胚を研究対象とする主要な実験研究法を解説してある。生命現象研究へ大きな手がかりとなる本書は，医学・生物学・農学・薬学を専攻する研究者の必携の書です。

岡山大学 妹尾左知丸 三菱化成生命研 加藤淑裕
京都大学 入谷 明 慶応義塾大学 鈴木秋悦
東京大学 館 鄰 — 編集 —

体細胞遺伝学

A5判・720頁
定価 9800円
送料 400円

HVJによる細胞融合法，薬物や放射線，化学物質を用いた細胞の突然変異による研究，あるいは遺伝子組換え法を使った研究等体細胞遺伝学研究の最前線をまとめたモノグラフィー。医学・生物学・農学・薬学研究に絶好の参考書です。

東北大学 山根 績 大阪大学 岡田善雄 / 編集
前金沢大学 堀川正克 東京大学 黒木登志夫



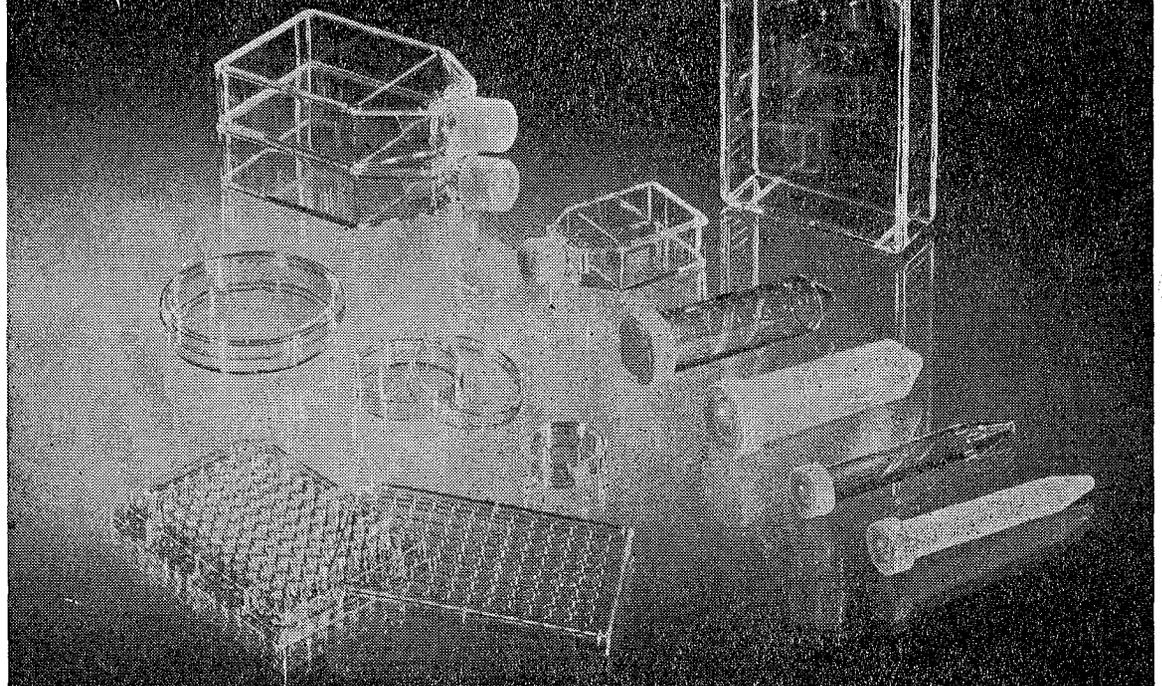
理工学社

〒113東京都文京区本駒込5-9-10 振替東京1-34676 電話03(828)5211(代) <図書目録進呈>

CORNING

組織培養用プラスチック製品

ご満足いただけないCORNING組織培養用プラスチック製品は、無償でお取替えることをお約束します。



PYREX®のコーニングが提供する組織培養用プラスチック製品は
実験のバラツキを解消します。

●無菌生産

コーニングの組織培養用製品は、無菌環境で作られています。このため、バクテリアは勿論、機械油の蒸気やほこり等の付着もなく、培養特性が安定しています。

●フォームラック

コーニングの遠沈管・培養管には、フォームラック付きがあります。収納や運搬に便利なおうえ、ガタツキがないため傷をつけることなく、沈澱物が再浮遊する心配もありません。

●100%リークテスト

コーニングのフラスコは、全数圧力試験を行っております。また厚手に成形されていますので、リークやクラックの心配はありません。

●ダブルシールキャップ

ダブルシールキャップは、容器の口部内側と端部の2箇所をシールするもので、漏洩を完全に防ぎます。

●クロスコンタミネーション防止

マイクロプレートは、孔が独立しており、クロスコンタミネーションの危険がありません。

CODE	品名	品種	個/パック	個/ケース	材質(本体)	表面処理	滅菌	備考
25000	ペトリ皿	35φ×10mm	20	500	スチロール樹脂	○	無菌生産	
25010		60φ×15mm	20	500	"	○	"	
25020		100φ×20mm	20	500	"	○	"	
25100	フラスコ	25cm ³ (70mℓ)	20	300	スチロール樹脂	○	無菌生産	カントネック、ダブルシールキャップ
25110		75cm ³ (270mℓ)	5	100	"	○	"	"
25120		150cm ³ (600mℓ)	5	40	"	○	"	"
25140	ローラー ボトル	850cm ³ (2350mℓ)	2	36	スチロール樹脂	○	γ線	ダブルシールキャップ
25200	培養管	16φ×125ラック付	50	500	スチロール樹脂	○	無菌生産	ダブルシールキャップ
25310	遠沈管	15mℓラック付き	50	500	スチロール樹脂	—	γ線	許容遠心力1800 G、ダブルシールキャップ
25330		50mℓラック付き	25	300	ポリプロピレン	—	E T O	" 5000 G "
25820	マイクロ プレート	24孔、平底、蓋付き	1	50	スチロール樹脂	○	γ線	
25860		96孔、平底、蓋付き	1	50	"	○	"	

●表面処理は、親水性と細胞親和性を与えるもので、コーティングではありません。
●ETOは、エチレンオキシド・ガス滅菌です。
●詳細はカタログをご請求ください。

岩城硝子株式会社

本社/〒100 東京都千代田区丸の内3-2-3 (富士ビル)

本社販売部 ☎ 03(214)7401(代)

大阪支店 ☎ 06(362)6291(代)

名古屋支店 ☎ 052(211)3855(代)

九州支店 ☎ 092(451)5606(代)

広島支店 ☎ 082(248)0293(代)

札幌営業所 ☎ 011(221)3477(代)